

県央水戸アグリ情報

令和7年度 第1報
(令和7年8月発行)

発行：茨城県県央農林事務所
経営・普及部門
(水戸地域農業改良普及センター)
Tel 029-227-1521
Fax 029-225-0955

いばらきメロン品評会「KING&QUEENコンテスト2025」で ゴールドマイスター賞を受賞!!

令和7年5月28日、県オリジナル品種「イバラキング」と県内で生産された「赤肉メロン」の品評会「KING&QUEENコンテスト2025」が開催され、豊田大介氏(茨城町)が「イバラキング」部門においてゴールドマイスター賞を、福島将也氏(茨城町)が「赤肉メロン」部門において特別賞を受賞しました。3回目の出品で初めてゴールドマイスター賞を受賞した豊田氏からは「素晴らしいメロンが出品される中、自分がゴールドマイスター賞を受賞でき、嬉しさと驚きを隠せない。試行錯誤している中だが、今後も良い物を作っていきたい。」、福島氏からは「父の代から合わせて30年、土づくりと技術を積み重ねてきた成果と思う。さらに上を目指して頑張りたい。」と、喜びの声が聞かれました。

県央地域では昨年引き続き両部門の受賞となり、今後も高品質なメロンの生産が期待されます。受賞したメロンは、5月末～6月にかけて東京都内の百貨店やスイーツ店等で販売され、本県産メロンのPRにつながっています。

品評会「KING&QUEENコンテスト2025」表彰式の様子



▲左：豊田氏、右：福島氏



▲豊田氏の「イバラキング」

小美玉市農産物等ブランド「小美玉のめぐみ」に 8製品が認定されました!

農業が盛んな茨城県の中でも、小美玉市は県内第3位の農業産出額を誇り、農業が基幹産業として定着しています。一方で、農家数は減少傾向にあり、市の重要な課題となっています。このため、市の農業振興や地域活性化を目指し、令和6年3月に「小美玉市農産物等ブランド化推進戦略」を策定、市農産物等のブランド名を「小美玉のめぐみ」として、令和6年度に初めてとなる募集を行いました。令和6年11月に開催された「小美玉市農産物等ブランド化推進協議会」において「小美玉らしさ」、「貢献度」、「独自性」、「信頼性・品質」、「持続可能性・先進性・将来性」の総合的な審査を経て、れんこん、にらなど8つの農産品が認定されました。

今後は、認定された農産品を「小美玉のめぐみ」として、イベントや商談会への出展、オリジナルパンフレットへの掲載など市内外に販売促進やPRをしていく計画です。



▲「小美玉のめぐみ」認定式の様子

小美玉のめぐみ
(市HP)



「農業学園」に参加しませんか?

県央農林事務所 経営・普及部門(以下、当部門)では、就農して間もない農業者(おおよそ就農3年目まで)を対象に、農業経営における知識や技術を学ぶための講座として「水戸地域農業学園」を開催しています。講座では、意見交換など交流する場を設け、受講生同士の仲間づくりも支援しています。申し込み頂いた方には各講座の案内をお送りします。ご興味のある方はお気軽に当部門までご連絡ください!



▲農業学園・あぐり女子会開講式

「あぐり女子会」に参加しませんか? ※一部講座は農業学園と合同開催

管内の若手女性農業者の仲間づくり・情報交換を支援するため、あぐり女子会を開催しています。これまでに、先進農業者等の経営事例研修会やSNS講座など農業経営に役立つ講座を開催しています。今年度も講座*の開催を予定しておりますので、ご興味のある方はお気軽に当部門までご連絡ください!



あぐり女子会交流会(令和6年度)▶

収穫期のサツマイモ基腐病の防除対策

サツマイモ基腐病は糸状菌(カビ)が原因で、保菌した苗・イモ・葉や茎の残がい等が伝染源となります。発生すると防除が難しく、被害が拡大する恐れがあるので、収穫期には以下の対策に努めましょう。



葉の赤変・紫色の症状



地際部の黒変

① 収穫前の準備

- コンテナ等の洗浄および消毒
- 収穫前のほ場の観察
(生育不良、株元の黒変を伴う葉の変色、枯死等)

② 収穫から貯蔵中の対応

- 収穫したイモのほ場の記録およびほ場ごとの管理
- イモの変色・腐敗・萌芽や、黒変の有無の確認
- 他のほ場で作業する前の農機具・長靴等の洗浄

出典: 生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C)
および戦略的スマート農業技術等の開発・改良(SA2-102N)
令和4年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より

**疑わしい症状を見つけた場合は、
速やかに当部門までご連絡ください。**

露地野菜の害虫対策

昨年はチョウ目害虫の発生が多くみられ、定期的な薬剤防除を行ったにもかかわらず被害が相次ぎ、ねぎやきゃべつなどの収量の減少を招きました。特に大きな被害をもたらしたシロイチモジヨトウやハスモンヨトウは暖地系の害虫で寒さに弱く、越冬する個体はわずかですが、春以降増殖を繰り返し、夏季から秋季にかけて発生量が急増し、大きな被害を及ぼします。

**茨城県農業総合センター病害虫防除部では病害虫発生予察情報を提供しています。
予察情報を参考に適期防除を行いましょう。**

防除のポイント



シロイチモジヨトウ

幼虫が中齢以上になって、分散して食害するようになると、被害が増大するだけでなく、薬剤の効果が劣る傾向があります。圃場をよく観察し、早期発見に努め、集団で生息する若齢幼虫のうちに防除を徹底しましょう。



害虫の被害を受けたネギ

令和7年度 新規認定者の紹介

今年度、水戸地域から農業経営士1名、青年農業士5名が認定されました。新たに認定された方をご紹介します。

農業経営士 佐藤 晃一氏 (水戸市)



水戸市常澄地区で水稻を生産しています。自家直売所の販売では、「美味しさで笑顔になれる米づくり」を経営理念として、消費者とのコミュニケーションを大切にしています。

青年農業士 矢崎 雅昭氏 (水戸市)



露地ねぎを周年栽培しており、年々栽培面積を拡大しています。また、農福連携を通じて、地域の就労機会の拡充につながる取組みを積極的に行っています。

青年農業士 埜 真瑞氏 (茨城町)



土づくりにこだわった露地ねぎ栽培を行うとともにGLOBAL G.A.P.認証を取得し、生産工程管理に努めています。さらに、SNSを活用した農業体験イベントの開催にも力を入れて取り組んでいます。

青年農業士 長島 聖氏 (小美玉市)



JA新ひたち野小川にら部会に所属し、周年でにらを栽培しています。また、にら若手生産者研究会の会長を務めており、地域のにら生産振興に取り組んでいます。

青年農業士 根本 真至氏 (東海村)



家族経営で、かんしょを生産し干しいも加工を行っています。また、衛生管理について、研修を通じて学ぶことで、安全性に配慮した干しいも生産に取り組んでいます。

青年農業士 飛田 裕喜氏 (ひたちなか市)



干しいもを生産する自社法人の経営全般を中心に担っています。また、かんしょの栽培だけでなく、後継者の育成にも積極的に取り組んでいます。

職場における熱中症対策の強化について

熱中症の重篤化を防止するため、労働安全衛生規則が改正され、令和7年6月1日に施行されました。これにより、職場における熱中症対策の強化が事業者には義務付けられます。

熱中症対策情報(県HP) ▶▶▶



水稻生育情報を公開しています

県央地域の水稲生育状況や技術対策をホームページにて公開しています。『茨城県 県央農林事務所 経営・普及部門』で検索してもご覧いただけます。

水稻生育情報(県HP) ▶▶▶

